

Fujitsu Network SH SH1509PS 取扱説明書

はじめに

このたびは、SH1509PS PoE スイッチ（以降、本装置と記載）をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

本書は、本装置の取り扱いの基本的なことについて説明しています。

2018年2月 初 版

2023年5月 第2版

本書には「外国為替及び外国貿易管理法」に基づく特定技術が含まれています。
従って本書を輸出または非居住者に提供するとき、同法に基づく許可が必要となります。

Copyright Fujitsu Limited 2018-2023

目次

はじめに	2
本書の構成と使いかた	5
本書の取り扱いについて	5
本書の読者と前提知識	5
本書の構成	5
本書で使用するマークについて	5
本書における商標の表記について	5
安全上のご注意	6
警告表示について	6
メンテナンスに関するご注意	8
使用上のご注意	9
ツイストペアケーブルの除電について	9
清掃について	9
電波障害自主規制について	9
高調波電流規格について	9
ハイセイフティについて	9
事業系の使用済み製品の引き取りとリサイクルについて	10
ラック搭載およびテーブルタップへの接続時のご注意	10
グリーン製品について	10
第 1 章 お使いになる前に.....	11
1.1 梱包内容／各部の名称と働き	12
1.1.1 梱包内容	12
1.1.2 本装置 前面	13
1.1.3 本装置 背面	15
1.1.4 本装置 上面	16
1.1.5 本装置 底面	16
1.1.6 本装置 側面	17
1.2 電源ケーブル抜け防止金具の取り付け方法	17
1.3 オプション	18
1.3.1 19 インチラック取り付け金具	18
第 2 章 機器の設置	19
2.1 設置環境を確認する	20
2.1.1 設置条件を確認する	20
2.1.2 設置（保守）スペースを確認する	22
2.2 設置する	24
2.2.1 本装置を設置する	24
2.3 接続する	29
2.3.1 ツイストペアケーブルを放電する	29
2.3.2 ツイストペアケーブルを接続する	29
2.3.3 電源を投入／切断する	30
第 3 章 装置の機能	32
3.1 本装置の特徴と基本機能	33
3.2 オートネゴシエーション機能	33
3.3 フローコントロール機能	33
3.4 AUTO MDI/MDI-X 機能	34
3.5 給電機能	34
3.6 給電方式	34

3.7	給電管理	34
第4章	ネットワーク構成例	35
4.1	構成例	36
第5章	トラブルシューティング	37
5.1	トラブルが発生したら	38
5.2	ランプが異常な場合	38
5.3	通信ができない場合	39
5.4	PoE 給電ができない	39
付録	40
付A	基本仕様	41
付B	10/100/1000BASE-T インタフェース	42
B.1	接続コネクタ	42
B.2	端子対応	42
B.3	PoE 給電	42
付C	スイッチングハブ利用時の注意事項	43
C.1	ケーブル誤接続（ループ）に関する注意	43
C.2	接続ポート設定に関する注意	44
C.3	設置環境	44
C.4	電源ケーブルに関する注意	44
索引	45

本書の構成と使いかた

本書では、本装置をお使いになる前に知っておいていただきたいことを説明しています。

本書の取り扱いについて

本書には、本装置を安全に使用していただくための重要な情報が記載されています。

本装置を使用する前に本書を熟読してください。特に本書に記載されている「安全上のご注意」をよく読み、理解された上で本装置を使用してください。また、本書は本装置の使用時、いつでも参照できるように大切に保管してください。

お客様の生命、身体、財産に被害をおよぼすことなく弊社製品を安全に使っていただくために細心の注意を払っています。本装置を使用する際には、本書の説明に従ってください。

本書の読者と前提知識

本書は、ネットワーク管理を行っている方を対象に記述しています。

本書を利用するにあたって、ネットワークおよびインターネットに関する基本的な知識が必要です。

本書の構成

以下に、本書の構成と各章の内容を示します。

章タイトル	内容
第1章 お使いになる前に	この章では、本装置の梱包内容、各部の名称と働き、オプションについて説明します。
第2章 機器の設置	この章では、本装置の設置および接続について説明します。
第3章 装置の機能	この章では、本装置の機能について説明します。
第4章 ネットワーク構成例	この章では、本装置のネットワーク構成例について説明します。
第5章 トラブルシューティング	この章では、トラブルが起きたときの原因と対処方法について説明します。
付録	この章では、基本仕様、インタフェースの仕様について説明します。

本書で使用するマークについて

本書で使用しているマーク類は、以下のような内容を表しています。

こんな事に気をつけて 本装置をご使用になる際に、注意していただきたいことを説明しています。



操作手順で説明しているもののほかに、補足情報を説明しています。



操作方法など関連事項を説明している箇所を示します。



製造物責任法 (PL) 関連の警告事項を表しています。本装置をお使いの際は必ず守ってください。



製造物責任法 (PL) 関連の注意事項を表しています。本装置をお使いの際は必ず守ってください。



本書における商標の表記について

本書に記載されている会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。




安全上のご注意


警告表示について







本書では、人身や財産への危害を未然に防ぎ、本装置を安全に使用いただくために守っていただきたい事項を表示しています。以下の表示と記号の意味、内容をよくご理解のうえ、本書をお読みください。










-  **警告** 正しく使用しない場合、死亡や重傷など、人体への重大な障害をもたらすおそれがあることを示します。
-  **注意** 正しく使用しない場合、軽傷または中程度の傷害を負うおそれがあることを示します。また、本装置や本装置に接続している機器に損害を与えるおそれがあることを示します。

危害や損害の内容を示すために、以下の記号を使用しています。

記号	記号の意味
	△で表示された記号は、警告や注意事項を示しています。記号の中やその脇には、具体的な内容が記載されています。
	○で表示された記号は、してはいけない禁止行為を示しています。記号の中やその脇には、具体的な内容が記載されています。
	●で表示された記号は、必ず従っていただく行為の強制、指示を示しています。記号の中やその脇には、具体的な内容が記載されています。






-  **警告** 本装置を安全にお使いいただくために、必ずお守りください。正しく使用しない場合、死亡や重傷など、人体への重大な障害をもたらすおそれがあることを示します。

警告事項	
 分解禁止	本装置の分解・解体・改造・再生を行わないでください。 感電・火災・故障の原因となります。
 アース線接続	必ずアース接続してください。 アース接続しないで使用すると、感電のおそれがあります。 アース接続は、必ず電源プラグをコンセントに接続する前に行ってください。 アース接続を外すときには、必ず電源プラグをコンセントから抜いてから行ってください。
 禁止	電源ケーブルを傷つけたり、加工したりしないでください。 電源ケーブルの上に物をのせたり、引っ張ったり、無理に曲げたり、ねじったり、加熱したりして、電源ケーブルを傷めないでください。 電源ケーブルを束ねた状態で使用しないでください。 感電や火災のおそれがあります。その他のケーブル類も同様です。
 禁止	表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。 また、タコ足配線をしないでください。 感電・火災の原因となります。
 ぬれ手禁止	ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。 感電のおそれがあります。
 禁止	電源ケーブルや電源プラグが傷んだり、コンセントの差し込み口がゆるいときは使用しないでください。 そのまま使用すると、感電・火災の原因となります。

警告事項	
 接触禁止 近くで雷が発生したときは、本装置、電源ケーブルおよびその他のケーブルに触れないでください。 感電の原因となります。	 プラグを抜く 万一、発熱、発煙、異臭がするなどの異常が発生した場合は、ただちに使用を中止してください。 すぐに電源ケーブルのプラグをコンセントから抜き、煙などの異常が出なくなるのを確認し、弊社の技術員または弊社が認定した技術員に連絡してください。 そのまま使用すると、感電・火災の原因となります。
 異物禁止  プラグを抜く 本装置の通気孔などから内部に金属類や燃えやすいものなどの、異物を差し込んだり、落としたりしないでください。 また、水などの液体を入れないでください。 万一、異物や液体が入った場合は、まず電源プラグをコンセントから抜いて、弊社の技術員または弊社が認定した技術員に連絡してください。 そのまま使用すると、感電・火災・故障の原因となります。	 禁止 インタフェースコネクタには、適合する回線のコネクタ以外のものを絶対に差し込まないでください。 感電・故障の原因となります。
 感電注意 サービスマン以外は、カバーを開けないでください。 また、保守時には、必ず電源ケーブルを抜いてください。 感電のおそれがあります。	 注意 梱包に使用しているビニール袋は、お子さまが口に入れたり、かぶって遊んだりしないようにしてください。 窒息の原因となります。
 注意 取り外したネジなどは、小さなお子さまが誤って飲み込むことがないように、小さなお子さまの手の届かないところに置いてください。 万一、飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。	 禁止 清掃の際には、清掃用スプレー（可燃性物質を含むもの）を使用しないでください。 火災・故障の原因となります。

⚠️ 注意

正しく使用しない場合、軽傷または中程度の傷害を負うおそれがあることを示します。
 また、本装置や本装置に接続している機器に損害を与えるおそれがあることを示します。

注意事項	
 禁止 電源が入っている状態で本装置に長時間（10秒以上）触れないでください。 低温火傷の原因となることがあります。	 本装置の底面は熱くなる場合があります。 装置を持つ場合には注意してください。
 禁止 ラジオやテレビジョン受信機のそばで使用しないでください。 ラジオやテレビジョン受信機に雑音が入る場合があります。	 本装置を移動するときは、必ず電源ケーブルを抜いてください。 故障の原因となります。
 禁止 本装置を縦置きおよび段積みしないでください。 本装置を段積みすると高温になり、故障の原因になります。 また、落下による怪我・破損・故障の原因となります。	 禁止 本装置がサポートしている構成以外の機器を実装、または接続しないでください。 故障の原因となります。
 禁止 本装置の上に物を置いたり、本装置の上で作業したりしないでください。 本装置が破損・故障したり、作業者が負傷したりするおそれがあります。	 配線工事は、正しく行ってください。 正しい配線工事を行わないと正常な通信が行えないだけでなく、本装置の故障にもつながります。
 禁止 本装置をぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に設置しないでください。 また、強い衝撃や振動の加わる場所で使用しないでください。 落下による怪我・破損・故障の原因となります。	 禁止 直射日光の当たる場所や暖房機の近く、湿気、ホコリの多い場所には置かないでください。 感電や火災のおそれがあります。

注意事項	
 <p>本装置は、屋内に設置してください。 屋外に設置すると故障の原因となります。</p>	 <p>本装置内部が高温になるため、通気孔をふさが ないでください。 火災のおそれがあります。</p> <p>禁止</p>
 <p>国内でだけ使用してください。 本装置は、国内仕様になっていますので、海外 では使用できません。</p>	 <p>電源ケーブルは、プラグ部分をもってコンセ ントから抜いてください。 プラグが傷んで感電や火災のおそれがあります。</p>
 <p>極端な高温または低温環境や温度変化の激しい 場所で使用しないでください。 故障の原因となります。本装置の使用温度範囲 を守ってください。</p> <p>禁止</p>	 <p>電源プラグは、電源コンセントに確実に奥まで 差し込んでください。 差し込みが不十分な場合、感電・発煙・火災の 原因となります。</p>
 <p>本装置を薬品の噴霧気中や薬品の触れる場所な ど腐食性ガス発生環境下では使用しないでくだ さい。破損・故障の原因となります。</p> <p>禁止</p>	 <p>電源プラグの金属部分およびその周辺にホコリ が付着している場合は、乾いた布でよく拭き 取ってください。 そのまま使用すると、火災の原因となることが あります。</p>
 <p>電子レンジなど、強い磁界を発生する装置のそ ばで使用しないでください。 故障の原因となります。</p> <p>禁止</p>	 <p>使用中の本装置を布で覆ったり、包んだりしな いでください。 熱がこもり、火災の原因となることがあります。</p> <p>禁止</p>
 <p>本装置の通気孔の確保およびケーブル処理に必 要な空間をとってください。 本装置を並べて使用する場合でも、それぞれに 必要なサービスエリアを設けてください。 ケーブルの障害や故障の原因となります。</p>	 <p>電源ケーブルは同梱のものを使用してください。 また、同梱の電源ケーブルを他の製品で使用し ないでください。</p>
 <p>装置への結露は破損・故障の原因となりますの で結露を防止してください。</p> <p>注意</p>	 <p>外気が直接流入する場所に装置を設置すると粉 塵等の影響により破損・故障の原因となります。</p> <p>禁止</p>
 <p>噴霧式加湿器が噴霧する水滴中の不純物が乾燥 すると白粉となって、機器内部に付着するため、 不純物の含まれない水を使用してください。 破損・故障の原因となります。</p> <p>禁止</p>	 <p>潮風に含まれる塩分は絶縁不良や部材の腐食劣 化の原因となるため、製品は海岸から離れた場 所に設置を行ってください。 破損・故障の原因となります。</p> <p>禁止</p>
 <p>浸水、雨漏り、給水配管の漏れ等がない場所に 設置してください。</p> <p>注意</p>	 <p>粉末消火剤や泡消火材は、機器や媒体を汚損す るリスクがあるため、使用する消火剤は、機器 影響の少ない消火剤等の使用を推奨いたします。</p> <p>注意</p>
 <p>鼠の侵入による信号ケーブルや電源ケーブルの かじりによる誤動作、断線、漏電、絶縁不良を 防止するため、侵入するような隙間や穴を塞い でください。</p> <p>注意</p>	

メンテナンスに関するご注意

- 決してご自身では修理を行わないでください。故障の際は、弊社の技術員または弊社が認定した技術員によるメンテナンスを受けてください。
- 本装置をご自身で分解したり改造したりしないでください。本装置の内部には、高電圧の部分および高温の部分があり危険です。

使用上のご注意

- 本製品を安定した状態でご使用になれる期間は5年が目安です。これは使用環境温度が40℃を想定した数値です。
- 本装置として提供される取扱説明書および装置本体は、お客様の責任においてご使用ください。
- 本装置の使用によって発生する損失やデータの損失については、弊社では一切の責任を負いかねます。また、本装置の障害の保証範囲はいかなる場合も、本装置の代金としてお支払いいただいた金額を超えることはありません。あらかじめご了承ください。

ツイストペアケーブルの除電について

ツイストペアケーブルは、ご使用の環境などによって、静電気が帯電することがあります。静電気が帯電したツイストペアケーブルをそのまま機器に接続すると、機器または機器の接続ポートが誤動作したり、壊れたりすることがあります。

接続する機器に接続する直前に静電気除去ツールなどをご使用いただき、ツイストペアケーブルに帯電している静電気をアース線などに放電して接続してください。

また、静電気を放電したあと、接続しないまま長時間放置すると、放電効果が失われますのでご注意ください。

☛ 参照 [\[2.3.1 ツイストペアケーブルを放電する\]](#) (P.29)

清掃について

本装置を清掃する場合、布に水（または水で薄めた中性洗剤）を含ませ、固く絞ってからふいてください。

ふき取りのときに、本装置のスイッチ類やすきまなどに、水が入らないように十分にご注意ください。

電波障害自主規制について

この装置は、クラス A 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。 VCCI-A

高調波電流規格について

本製品は、高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 適合品です。

ハイセイフティについて

本装置は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業用等の一般的用途を想定して設計・製造されているものであり、原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療用機器、兵器システムにおけるミサイル発射制御など、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途（以下「ハイセイフティ用途」という）に使用されるよう設計・製造されたものではありません。

お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本装置を使用しないでください。ハイセイフティ用途に使用される場合は、弊社の担当営業までご相談ください。

事業系の使用済み製品の引き取りとリサイクルについて

法人のお客様から排出される弊社製品は「事業系IT製品リサイクルサービス」(有料)にて回収、リサイクルし、資源の有効利用に取り組んでいます。

本製品の廃棄については、以下の富士通ホームページをご覧ください。

URL : <http://www.fujitsu.com/jp/services/infrastructure/maintenance/lcm/service-phase4/recycle/>

ラック搭載およびテーブルタップへの接続時のご注意



警告

本装置をラックへ搭載する場合は、使用温度環境の管理、物理的安定性の確保、漏えい電流に対する注意が必要です。本装置のラックへの搭載は、これらの知識を有した技術者が行ってください。感電、火災などの原因となります。

- 本装置の動作保証温度、湿度を超えないように、ラック内外の温度と湿度を管理してください。
- 本装置の通気孔をふさがないように設置してください。
- 本装置をラックへ搭載する場合は、装置と装置の間に1ユニット以上の間隔を空けて搭載してください。装置間に空きスペースがない場合、装置が高温になり、故障または装置寿命に影響を与えるおそれがあります。
- 搭載するラックの最大積載量を考慮して搭載してください。
- 設置場所の電源供給能力を確認して設置してください。
- 本装置の電源ケーブルをテーブルタップに接続する場合、テーブルタップの接地線を通して大漏えい電流が流れることがあります。電源接続に先立ち、必ず接地接続を行ってください。電源ケーブルが分電盤に直接接続されない場合、工業用プラグを持ったテーブルタップを使用してください(本装置の漏えい電流は最大3.5mAです)。

グリーン製品について

弊社の厳しい環境評価基準をクリアした地球に優しい、環境への負荷の少ない「グリーン製品」です。



主な特長

- 小型/省資源化
- 節電機能保有
- 再資源化率が高い

このマークは富士通株式会社のグリーン製品の評価基準に適合したグリーン製品に表示しています。

富士通の環境についての取り組みの詳細は、以下の富士通ホームページをご覧ください。

URL : <http://www.fujitsu.com/jp/about/environment/> [環境活動]

第1章 お使いになる前に



この章では、本装置の梱包内容、各部の名称と働き、オプションについて説明します。

1.1	梱包内容／各部の名称と働き.....	12
1.1.1	梱包内容.....	12
1.1.2	本装置 前面.....	13
1.1.3	本装置 背面.....	15
1.1.4	本装置 上面.....	16
1.1.5	本装置 底面.....	16
1.1.6	本装置 側面.....	17
1.2	電源ケーブル抜け防止金具の取り付け方法.....	17
1.3	オプション.....	18
1.3.1	19インチラック取り付け金具.....	18

1.1 梱包内容／各部の名称と働き

本装置をお使いになる前に、梱包内容を確認してください。

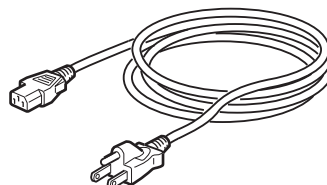
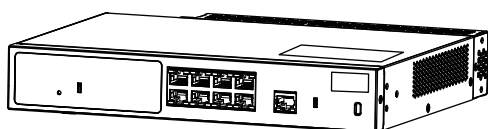
1.1.1 梱包内容

本装置には、以下のものが同梱されています。すべてそろっていることを確認してください。

本体

電源ケーブル (2m)

電源ケーブル抜け防止金具

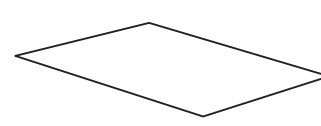
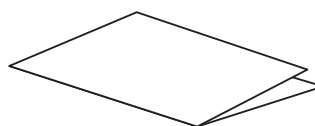


ゴム足 (4個)

ゴム足用取り付けネジ (4個)

取扱説明書

製品保証書



マグネット (6個)

マグネット用取り付けネジ (6個)



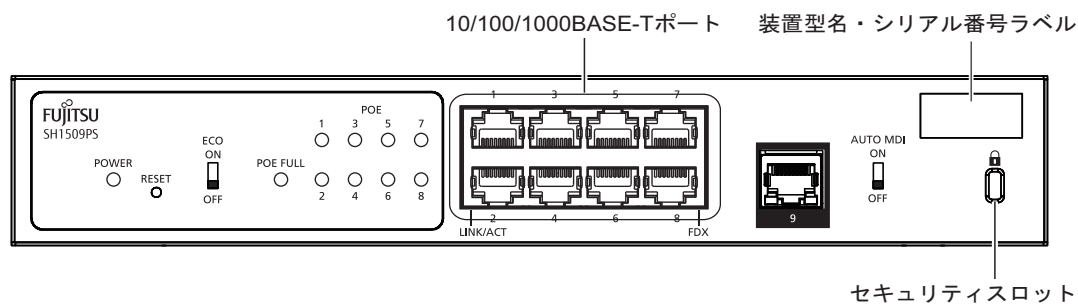
- 本体 本装置です。
- 電源ケーブル (2m) 本装置とコンセントをつなぐケーブルです。



オプションにケーブル長が3mの電源ケーブルもあります。

- 電源ケーブル抜け防止金具 電源ケーブルを本装置に固定するための金具です。
(本体に取り付け済み)
- ゴム足 (4個) 本装置を卓上で使用する場合に、本装置に取り付ける足です。
(本体に取り付け済み)
- ゴム足用取り付けネジ (4個) ゴム足を取り付けるネジです。
(本体に取り付け済み)
- マグネット (6個) 金属面に設置する場合に、本装置に取り付けるマグネットです。
- マグネット用取り付けネジ (6個) マグネットを取り付けるネジです。
- 取扱説明書 本書です。
- 製品保証書 本製品の保証書です。

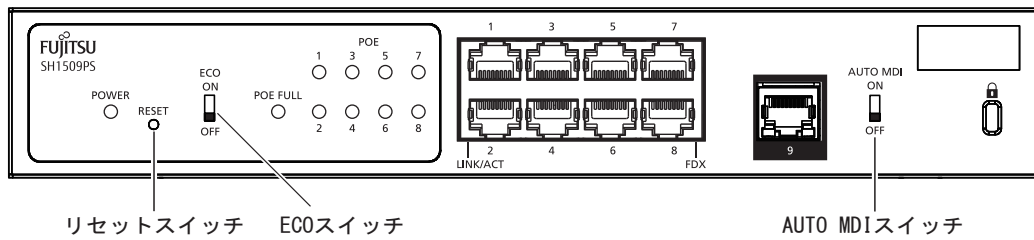
1.1.2 本装置 前面



- 10/100/1000BASE-Tポート
 Ethernet（10/100/1000BASE-Tポート）のネットワーク機器を接続します。
 カテゴリ5e以上のツイストペアケーブルを使用してください。
 1-8ポートが給電ポート（IEEE802.3afおよびIEEE802.3at準拠）として利用できます。
- 装置型名・シリアル番号ラベル
 装置型名とシリアル番号が記載されています。本装置の底面からもシリアル番号（製造号機）が確認できます。
- セキュリティスロット
 市販の盗難防止用ケーブルを接続します。セキュリティスロットは、Kensington社製のマイクロセーバーセキュリティシステムに対応しています。
 盗難防止用ケーブルは、以下のものを購入してください。ほかの類似のケーブルは、取り付けられない場合があります。
 商品名 : サンワサプライ ノートパソコンセキュリティキット
 商品番号 : SL-38（1705943）
 （富士通コワーコ株式会社 お問い合わせ：電話番号0120-505-279）

スイッチの詳細

スイッチの詳細を下記に示します。



- リセットスイッチ 本装置の設定を変更したときに押します。先の細いもので押してください。
- ECOスイッチ OFF時、各ランプの状態を表示します（工場出荷時）。
ON時、Powerランプ以外のランプは消灯します。
- AUTO MDIスイッチ MDI/MDI-Xの設定を切り替えるスイッチです。
OFF時、1-8ポートはMDI-X固定、9ポートはMDI固定となります（工場出荷時）。
ON時、すべてのポートはMDI/MDI-X自動検出となります。
先の細いもので切り替え操作を行ってください。
変更後は、電源の再投入またはリセットスイッチを押して、設定を反映してください。



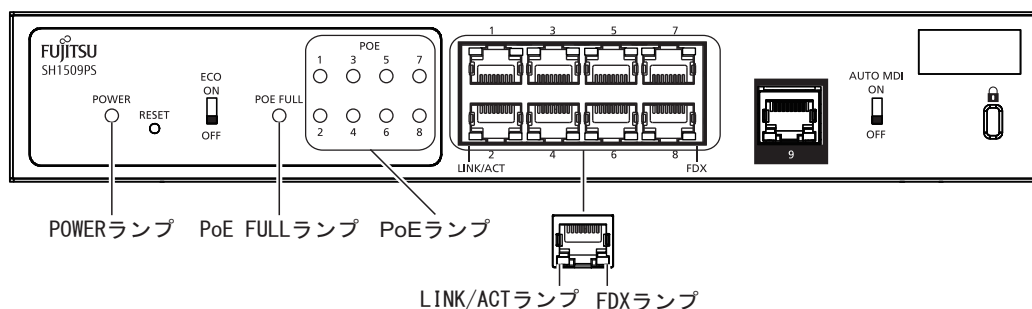
ECOモードにすると、POWERランプ以外のランプが消灯し、消費電力を少なくすることができます。

こんな事に気をつけて

- AUTO MDIスイッチで設定を変更した場合は、必ず電源の再投入またはリセットスイッチを押してください。変更した設定が有効になります。
- リセットした場合は、一瞬通信断となりますので通信を止めてから行ってください。
- 接続相手が（半二重/全二重にかかわらず）固定設定の場合、本装置はオートネゴシエーションの規格どおり半二重で接続します。

ランプの詳細

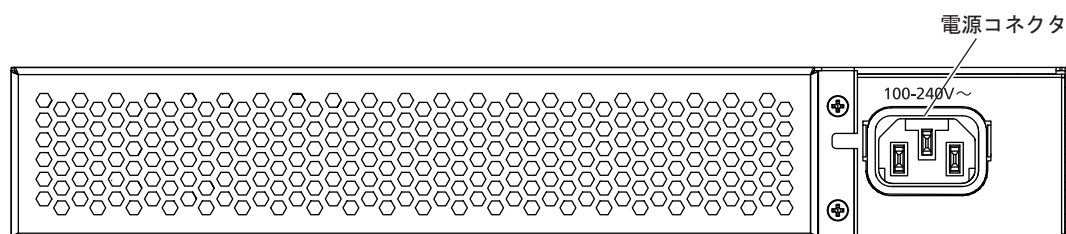
ランプの詳細を下記に示します。



各ランプの表示仕様を下記に示します。

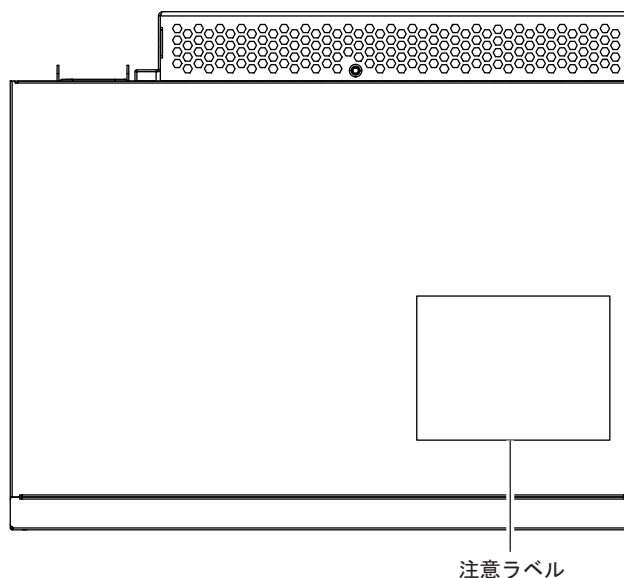
ランプ名	表示	状態
POWER	緑点灯	電源が投入されていることを示します。
	消灯	電源が未投入であることを示します。
PoE FULL	緑点灯	70W以上100W以下で給電中であることを示します。
	緑点滅	100Wを超えたことを示します。
	消灯	70W未満で給電中であることを示します。
PoE	緑点灯	対象ポートが給電状態であることを示します。
	緑点滅	運用中に本装置または受電機器側で何らかの要因により過電流が発生し、給電が停止されたことを示します。
	消灯	対象ポートへの給電がされていないことを示します。
LINK/ACT	緑点灯	1000Mbpsでリンク確立していることを示します。
	緑点滅	1000Mbpsで通信中であることを示します。
	橙点灯	10Mbpsまたは100Mbpsでリンク確立していることを示します。
	橙点滅	10Mbpsまたは100Mbpsで通信中であることを示します。
	消灯	リンクが未確立であることを示します。
FDX	点灯	全二重でリンク確立したことを示します。
	消灯	半二重でリンク確立したことを示します。

1.1.3 本装置 背面



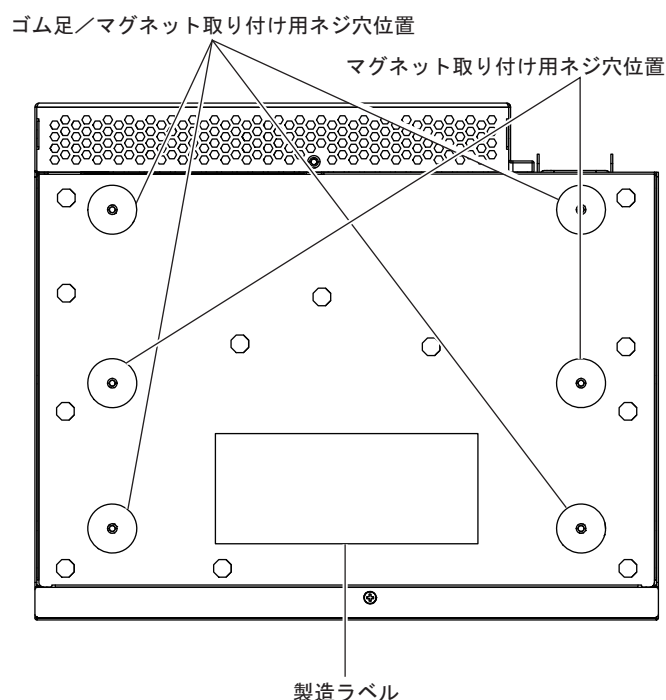
- 電源コネクタ 同梱の専用電源ケーブル、またはオプション電源ケーブルを接続します。

1.1.4 本装置 上面



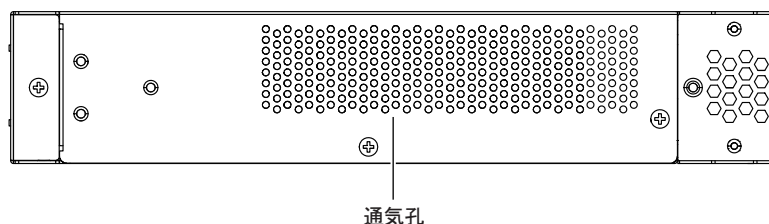
- 注意ラベル 注意すべき内容について記載されています。

1.1.5 本装置 底面



- ゴム足取り付け用ネジ穴位置
本装置を卓上で使用する場合に、ゴム足を取り付ける位置を示します。
装置底面のネジ穴に合わせて、取り付けてください。
- マグネット取り付け用ネジ穴位置
本装置を金属に設置する場合に、マグネットを取り付ける位置を示します。
装置底面のネジ穴に合わせて、取り付けてください。
- 製造ラベル
型名、シリアル番号（製造号機）、製造年月などが記載されています。

1.1.6 本装置 側面



- ・ 通気孔 通気孔は左右の側面にあります。通気孔付近にスペースを空けてください。

1.2 電源ケーブル抜け防止金具の取り付け方法

同梱の電源ケーブル抜け防止金具を使用することによって、電源ケーブルの抜けを防止できます。

以下に、電源ケーブル抜け防止金具の取り付け手順を示します。

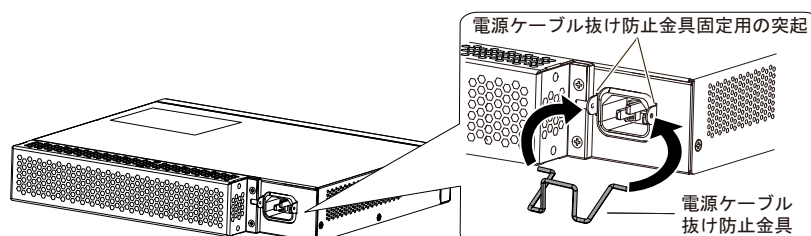
⚠ 警告

本装置を鍵が掛かるラックに搭載して、電源ケーブルを同梱の電源ケーブル抜け防止金具で固定する場合、ラック内部のサービスコンセントを使用してください。

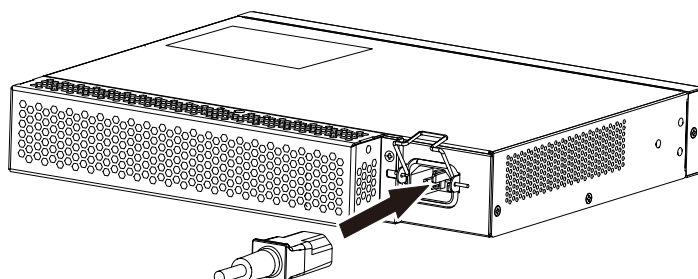
ラック外部のコンセントを使用する場合は、別途ラック内部で電源ケーブルを固定してください。電源ケーブルに外部からの張力が加わると、電源ケーブル抜け防止金具に不測の力が加わり、電源ケーブルの断線・接触不良を起こし、感電・火災の原因となります。

電源ケーブル抜け防止金具の取り付け

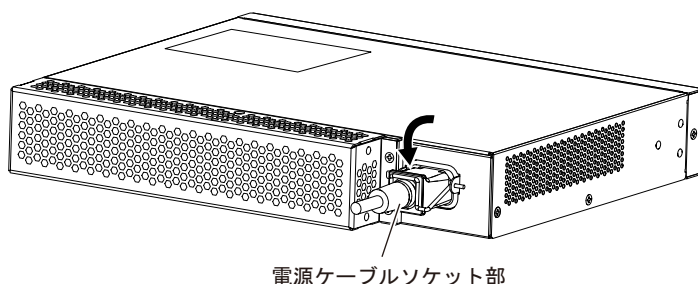
1. 電源ケーブル抜け防止金具を本装置に固定します。



2. 電源ケーブルを差し込みます。



3. 電源ケーブル抜け防止金具を電源ケーブルのソケット部に引っ掛けて、電源ケーブルを固定します。



電源ケーブル抜け防止金具の取り外し

電源ケーブル抜け防止金具の取り外しは、取り付けと逆の手順で行います。



電源ケーブル抜け防止金具を上下方向に回転させることで、電源ケーブルを固定／固定解除することができます。
電源ケーブルの固定を解除することで、電源ケーブルの抜き差しができます。

1.3 オプション

オプションの一覧を以下に示します。

項	型名	品名	備考
1	SH1RUE01	19インチラック取り付け金具	添付内容 ・取り付け金具 ・ネジ 6個
2	PWCBL-B003	電源ケーブル	ケーブル長：3m
3	SJ-PWCBL2	200V用電源ケーブル	ケーブル長：3m

1.3.1 19インチラック取り付け金具

オプションの19インチラック取り付け金具は、必ず専用品（SH1RUE01）を使用してください。

☞ 参照 「19インチラックに搭載する」(P.25)



警告
本装置をラックへ搭載する場合は、装置と装置の間に1ユニット以上の間隔を空けて搭載してください。
装置間に空きスペースがない場合、装置が高温になり、故障または装置寿命に影響を与えるおそれがあります。

第2章 機器の設置



この章では、本装置の設置および接続について説明します。

2.1	設置環境を確認する	20
2.1.1	設置条件を確認する	20
2.1.2	設置（保守）スペースを確認する	22
2.2	設置する	24
2.2.1	本装置を設置する	24
2.3	接続する	29
2.3.1	ツイストペアケーブルを放電する	29
2.3.2	ツイストペアケーブルを接続する	29
2.3.3	電源を投入／切断する	30

2.1 設置環境を確認する

設置する前に、以下のことを確認してください。

- ・ 本書に記載されている本装置およびオプションの梱包内容がすべてそろっている。
- ・ 各インタフェースコネクタに接続するケーブルが、各インタフェースの用途に適合している。

⚠ 警告

**インタフェースコネクタには、適合する回線のコネクタ以外のものを絶対に差し込まないでください。
感電・故障の原因となります。**

☞ 参照 [1.1.1 梱包内容] (P.12)

2.1.1 設置条件を確認する

本装置では、以下の環境を確保して設置してください。

⚠ 注意

以下の条件を守って設置してください。条件以外の環境で本装置を使用すると、故障の原因となります。

電源条件

以下の電気的条件下でご使用ください。

項目	条件
電圧	AC100～240V ±10%
周波数	50Hz/60Hz 47～63Hz
アース	空調アース、建屋アースと同一でないこと、D種接地（第三種接地）以上
最大消費電力	130W (AC100V時)
突入電流	30A

本製品に同梱されている電源ケーブルは、AC100V用です。

AC200Vで使用するときには、オプションの「200V用電源ケーブル（型番：SJ-PWCBL2）」をご使用ください。

こんな事に気をつけて

- ・ 落雷や停電などで瞬時電圧低下や波形が不安定などのところで、本装置を使用する場合は、交流無停電電源装置の設置を推奨します。瞬時電圧低下や波形乱れなどは装置誤動作・故障の原因となります。
- ・ 電源波形は正弦波で入力してください。それ以外の矩形波などでは、故障などの原因となることがあります。
- ・ 通常はこの電流が影響を与えることはありませんが、本装置の電源投入時に、突入電流による電源供給設備の電圧低下が起きないように設置環境を考慮してください。

温湿度条件

以下の環境下でご使用ください。

項目		条件	
温度	動作時	0～45℃	結露なきこと
	休止時	-15～60℃	
湿度	動作時	15～85%	
	休止時	8～90%	

こんな事に気をつけて

落雷の多い地方やモータなどの近くで本装置を使用する場合は、電源ラインや各信号ラインに対してサージ保護機器を接続してください。過度の外來サージは故障の原因となります。

設置条件

以下の設置条件でご使用ください。

項目	可否	条件
縦置き	×	—
平置き	○	装置にゴム足を取り付けてご使用ください。
段積み	×	—
スチール面	○	スチール面設置は、添付のマグネットをご使用ください。
19インチラック (EIA)	○	19インチラックへの設置は、19インチラック取付金具一式（オプション：SH1RUE01）をご使用ください。

チェックリスト

条件が守られているかを以下のチェックリストで確認してください。

チェック内容	チェック結果
本装置の上に物をのせていない	
本装置の通気孔をふさいでいない	
本装置を縦置きおよび段積みにしていない	
本装置の設置場所は直射日光の当たる場所や暖房機の近く、湿気、ほこりの多い場所ではない	
本装置の設置場所は振動の激しい場所や傾いた場所などの不安定な場所ではない	
本書の「安全上のご注意」(P.6)を読んだ	

2.1.2 設置（保守）スペースを確認する

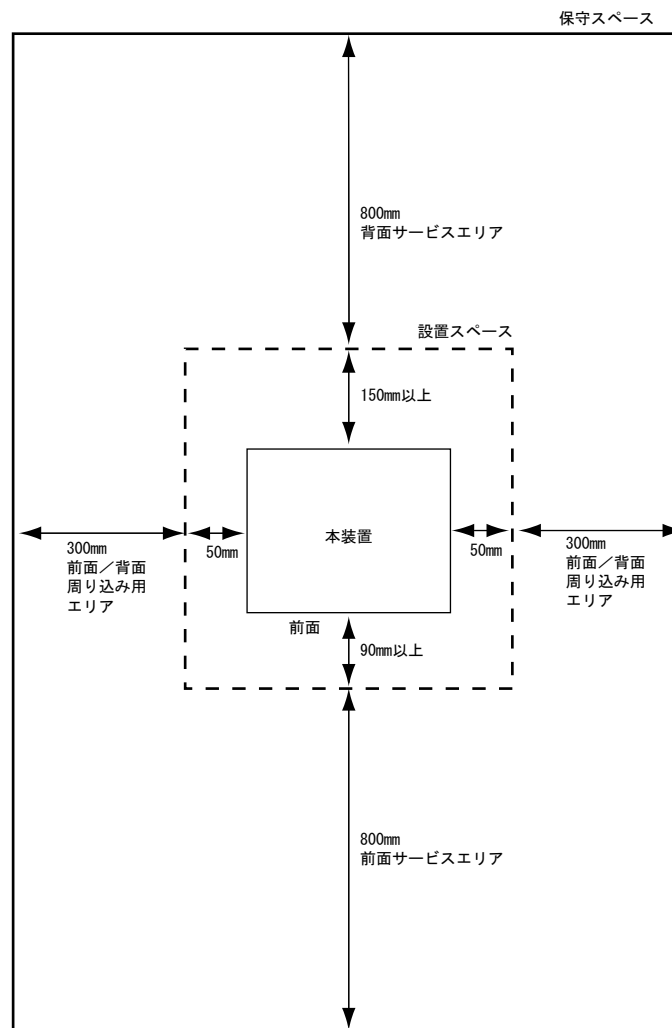
本装置の設置および保守を行う場合は、以下のスペースを確保してください。

本装置の設置（保守）スペースを確保する

卓上設置の場合

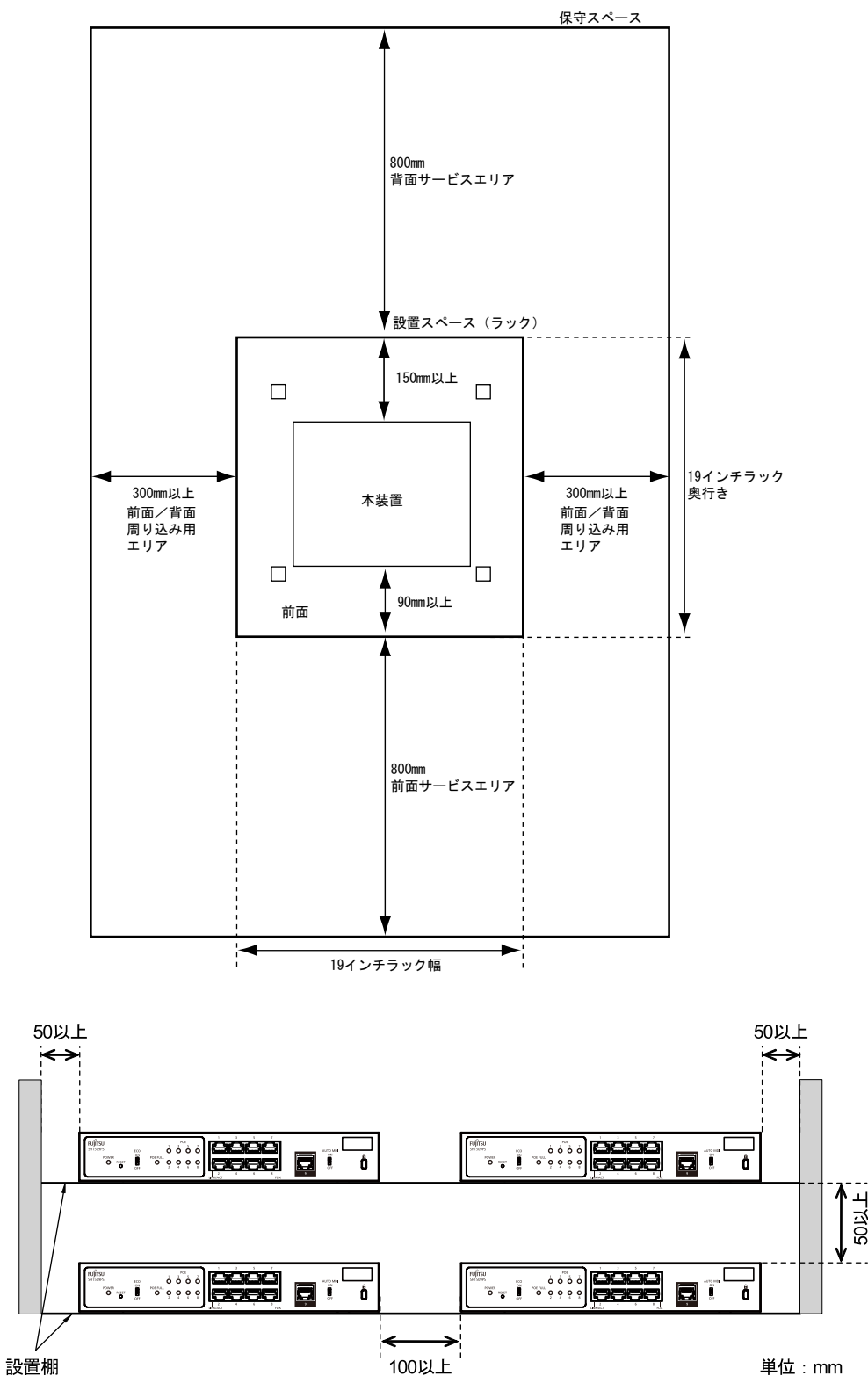
卓上設置を行う場合は、必ず同梱の台足を底面の決められた位置に取り付けてください。

本装置を設置および保守を行う場合は、以下のスペースを確保してください。



ラック搭載の場合

本装置を設置および保守を行う場合は、以下のスペースを確保してください。



2.2 設置する

本装置の設置方法について説明します。

2.2.1 本装置を設置する

本装置は、以下の方法で設置することができます。

- 卓上に設置する
- 19インチラックに搭載する（EIA規格19インチ）
- マグネットを使用して設置する

設置する際は、安全に保守するために、前後のスペースを確保してください。

こんな事に気をつけて

設置する際に、電源ケーブルを容易に抜くことができるスペースを確保してください。

☛ 参照 [2.1.2 設置（保守）スペースを確認する] (P.22)

卓上に設置する

本装置は、平らな卓上に置いて運用することができます。

工場出荷時は、ゴム足（4個）とゴム足用取り付けネジ（4本）が取り付けられた状態です。

再度取り付ける場合は、以下の設置手順を参考にしてください。

⚠ 注意

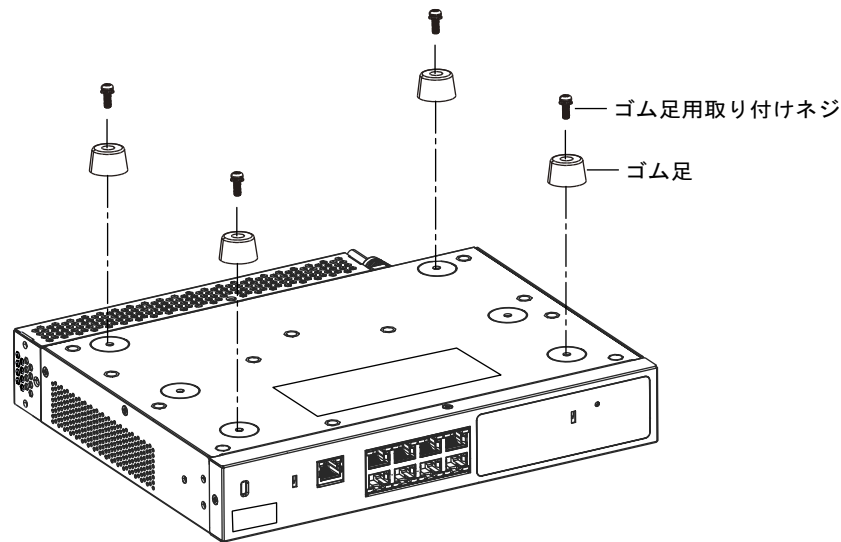
- **本装置は、縦置きにしないでください。落下による怪我・破損・故障の原因となります。**
- **本装置または他の装置を積み重ねて設置しないでください。装置が高温になり、故障または、装置寿命に影響を与えるおそれがあります。**

☛ 参照 [1.1.1 梱包内容] (P.12)

以下に、設置手順を示します。ゴム足を取り外す場合は、取り付け方法を参考にしてください。

1. 本装置の上面と底面を逆にして平面上に置きます。
2. 同梱のゴム足を本装置底面のネジ穴に合わせて、ゴム足用取り付けネジで取り付けます。

☛ 参照 [1.1.5 本装置 底面] (P.16)



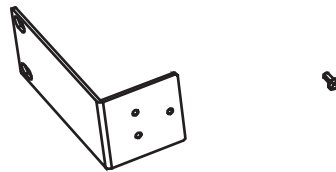
3. 本装置を卓上に設置します。

19 インチラックに搭載する

本装置は、EIA 規格の 19 インチラックに搭載して運用することができます。

以下の 19 インチラック取り付け金具一式（オプション：SH1RUE01）を用意します。

□ 19 インチラック取り付け金具一式（SH1RUE01）



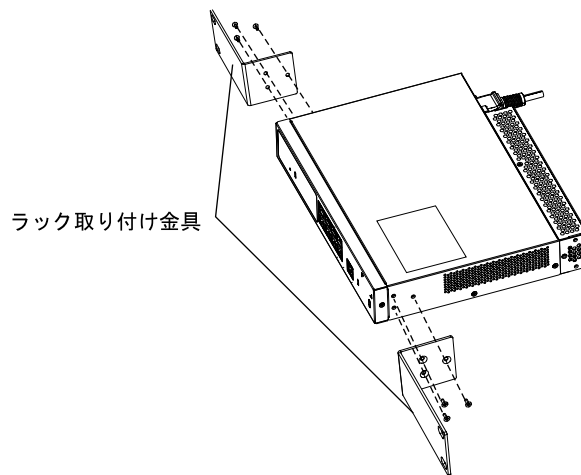
- ラック取り付け金具（2 個）
- M3 サラネジ（6 個）

こんな事に気をつけて

- ラック搭載時は、本装置にゴム足を取り付けしないでください。
- 本装置をラックマウント装置に搭載する場合は、ラック仕様に合った、取り付けネジを別途用意してください。
- 本装置をラックへ搭載する場合は、装置と装置の間に 1 ユニット以上の間隔を空けて搭載してください。装置間に空きスペースがない場合、装置が高温になり、故障または装置寿命に影響を与えるおそれがあります。
- ラックマウント装置の動作保証温度を超えないように、ラック内外の温度設定や管理を行ってください。
- ラックマウント装置の冷却機構に合った空冷スペースを確保してください。
- ラックマウント装置搭載時のラック全体の物理的安定性を確保してください。
- ラックマウント装置に電源供給を行う装置（テーブルタップ、他装置またはラックのサービスコンセントなど）の電源供給能力（電流定格）を確認してください。
- 以下の場合、接地漏洩電流の総和が規定を超える危険性があります。ラックマウント装置の電源ケーブル接続時の大接地漏洩電流に対して注意してください。
 - 複数の電源ケーブルを持つラックマウント装置を 1 つのサービスコンセントに接続している場合
 - それぞれのラックマウント装置の電源ケーブルは 1 本だが、ラック内の複数のラックマウント装置が 1 つのサービスコンセントに接続される場合

以下に、搭載手順を示します。ラックから取り外す場合は、逆の手順で行ってください。

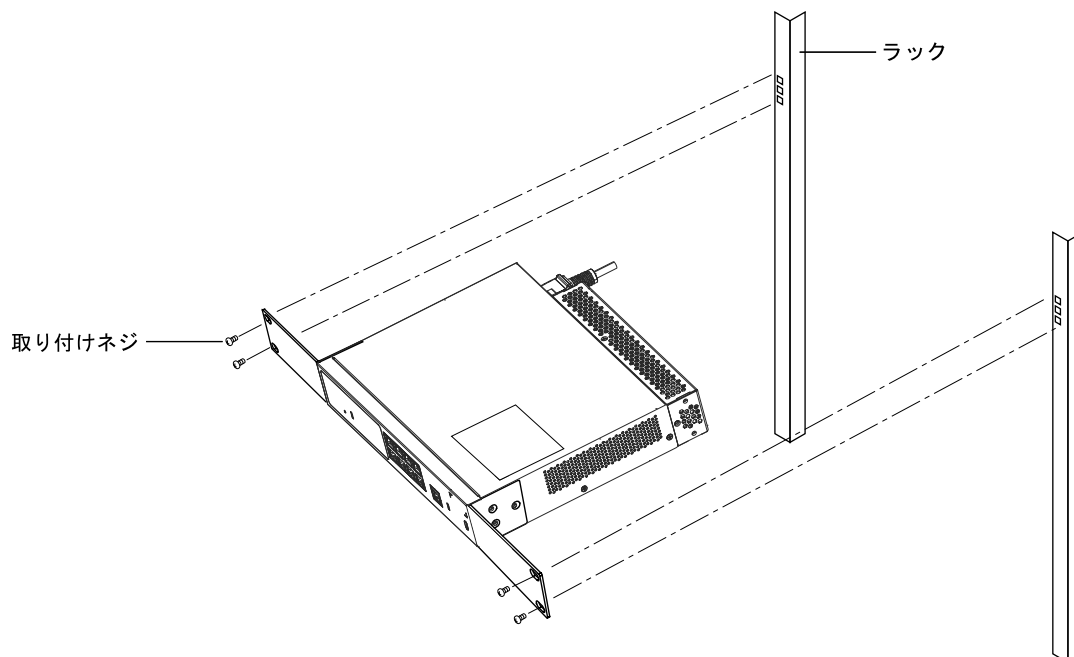
1. 本装置を平面上に置きます。
2. ラック取り付け金具を同梱の M3 サラネジで、本装置に取り付けます。



こんな事に気をつけて

ラック取り付け金具を取り付ける場合は、必ず 19 インチラック取り付け金具に同梱の専用ネジを使用してください。それ以外のネジを使用すると破損するおそれがあります。また、ネジを取り付ける際には必ずネジ山に一致するプラスドライバを使用してください。

3. 手順2. でラック取り付け金具を取り付けた本装置をラックに固定します。



こんな事に気をつけて

搭載後、すでに上下に搭載されている装置によって、電源ケーブルが取り付けられない場合があります。そのような場合は、ラックに取り付ける前に電源ケーブルを先に本装置に取り付けてください。

マグネットを使用して設置する

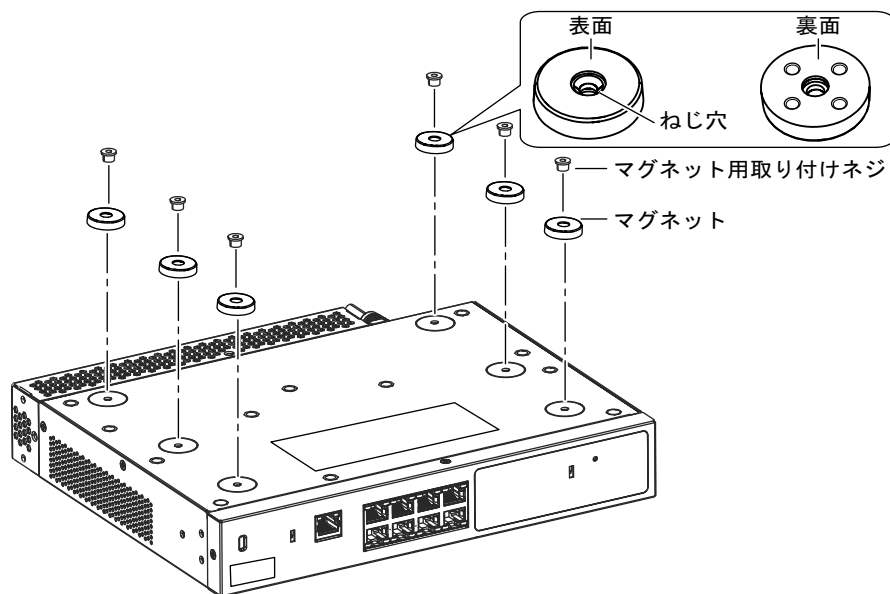
本装置は、添付のマグネットを使用して金属面に設置して運用することができます。

同梱のマグネット（6個）とマグネット用取り付けネジ（6本）を用意します。

以下に、設置手順を示します。マグネットを取り外す場合は、取り付け方法を参考にしてください。

1. 本装置の上面と底面を逆にして平面上に置きます。
2. 同梱のマグネットの表面を上にして、本装置底面のネジ穴に合わせて、マグネット用取り付けネジで取り付けます。ゴム足が付いている場合は、「[卓上に設置する](#)」(P.24) を参考にゴム足を取り外してから本手順を行ってください。

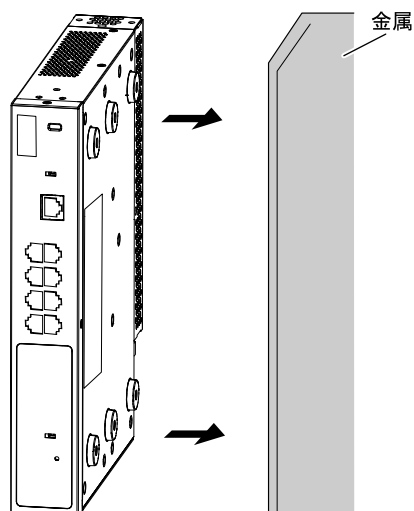
☛ 参照 「[1.1.5 本装置 底面](#)」 (P.16)



こんな事に気をつけて

マグネットには、表裏で磁力に差があります。マグネットの表面と設置先の金属面が接するように、取り付け方向には十分注意してください。

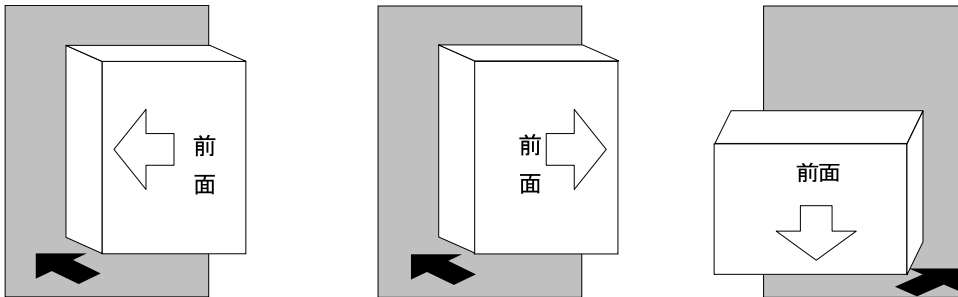
3. 本装置を金属面に設置します。



こんな事に気をつけて

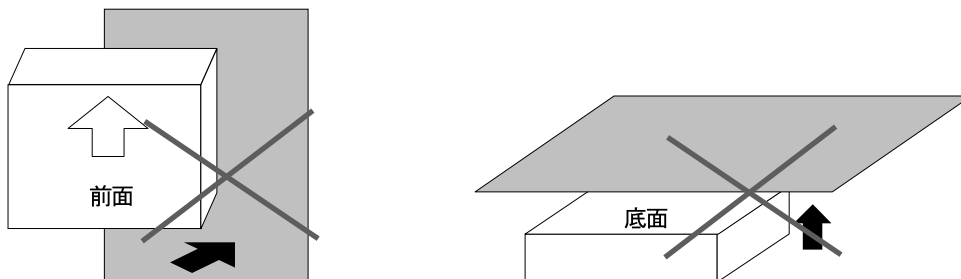
- 設置面の状態によっては、マグネットの十分な強度を得られない場合があります。
- マグネットの磁力が低下することがありますので、定期的に確認してください。
- 磁力の影響を受ける装置・媒体には近づけないでください。
- マグネットは、磁力が強力なため、取り付ける際には異物や指をはさみ込まないように、十分注意してください。
- 落下して人体に危害を与える場所には設置しないでください。
- 振動や衝撃の多い場所、および不安定な場所には設置しないでください。
落下による怪我や故障の原因となるおそれがあります。
- マグネットで机、棚などに設置する場合には、床から500mm以下に設置してください。
- 壁に設置後、落下防止のため、確実に設置されていることを確認してください。
- ケーブルなどの重みにより機器が落下しないように確実に取り付けを行ってください。
怪我や機器破損の原因となるおそれがあります。
- ツイストペアケーブルや電源ケーブルが人体やいすなどにあたらないように、ケーブルの固定などの対策を行ってください。
- ケーブルなどの取り外し・取り付けを行う場合は、設置したまま行わないようにしてください。

装置の取り付けは、以下のように設置してください。



⚠注意

以下のように設置しないでください。



2.3 接続する

ネットワークの設定により、10/100/1000BASE-T ポートに必要なケーブルを接続してから、電源ケーブルを電源コンセントに接続してください。

本装置には、IEEE802.3規格に適合する以下の他装置を接続することができます。

- Ethernet ネットワークデバイス
- 個々のPC（端末）またはサーバ
- ブリッジ、スイッチングハブ、ハブなど
- IEEE802.3afまたはIEEE802.3atに準拠したPoE対応の受電機器（無線アクセスポイント、ネットワークカメラ、IP電話機など）

本装置にツイストペアケーブルを接続する前に、帯電している静電気を放電することを推奨します。

2.3.1 ツイストペアケーブルを放電する

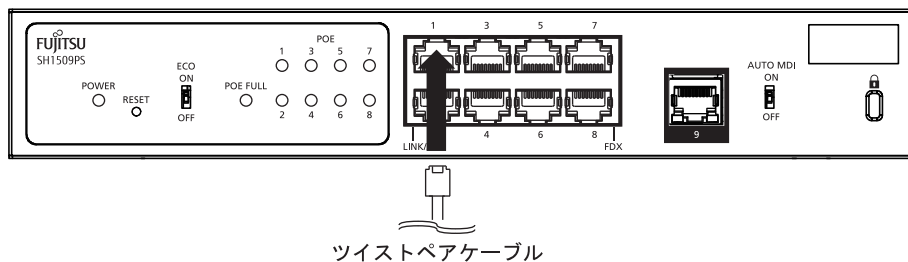
ツイストペアケーブルを機器に接続する直前に、静電気除去ツールなどを使用してケーブルに帯電している静電気をアース線（電源系アースおよびビルアースなど）に放電します。

こんな事に気をつけて

- 放電作業中は、ツイストペアケーブルの両端を機器（ハブ、ルータ、PC（端末））から抜いておいてください。
- 放電作業には、電子機器のアースは使用しないでください。必ず、電源系アースおよびビルアースなどが接地されているアースを使用してください。
- 電源系アースを使用する場合は、AC電源と短絡しないでください。

2.3.2 ツイストペアケーブルを接続する

ツイストペアケーブルを10/100/1000BASE-Tポートに『カチン』と音がするまで差し込んでください。



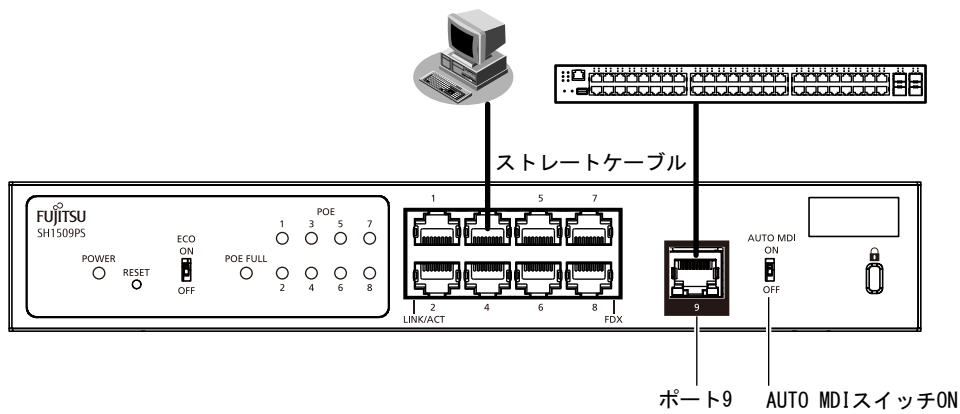
こんな事に気をつけて

- 使用可能なツイストペアケーブルは、カテゴリ 5e以上のケーブルです。
- ツイストペアケーブルに静電気が帯電されていることがありますので、接続前にツイストペアケーブルを放電して接続してください。

PC（端末）/PoE対応の受電機器を接続する場合は、ストレートケーブルをご使用ください。ほかのスイッチングハブとストレートケーブルで接続する場合はポート9をご使用ください。

また、AUTO MDIスイッチをONにすることで、全ポートMDI/MDI-X自動検出とすることも可能です。

AUTO MDIスイッチをOFFにした場合、ポート1～8はMDI-X固定、ポート9はMDI固定となります。



本装置の各ポートは、オートネゴシエーション機能により、接続された機器がサポートする最大の速度にポートが自動的に適合します。

- 10/100/1000BASE-Tポート：最大1000Mbps全二重モードまで

2.3.3 電源を投入／切断する

⚠注意

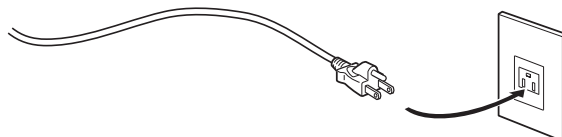
電源ケーブルは同梱のものを使用してください。また、同梱の電源ケーブルをほかの製品に使用しないでください。

こんな事に気をつけて

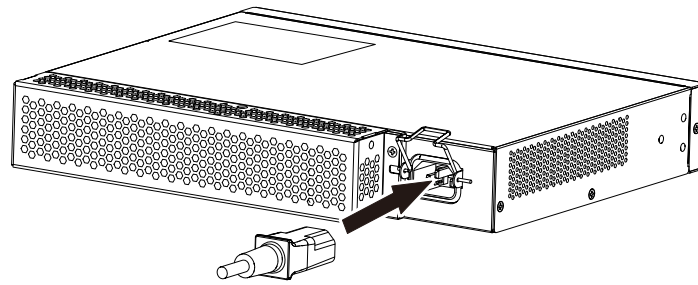
本装置を設置する際に、電源ケーブルを容易に抜くことができるスペースを確保してください。

電源を投入する

1. 電源ケーブルをコンセントにつなぎます。

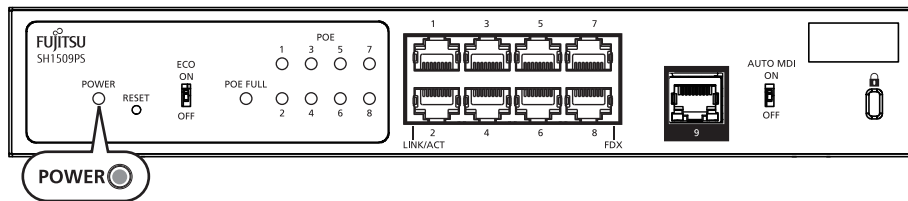


2. 本装置背面の電源コネクタに電源ケーブルを差し込みます。
電源が投入されます。



 電源ケーブル抜け防止金具の取り付け方法は、「1.2 電源ケーブル抜け防止金具の取り付け方法」(P.17)を参照してください。

3. 本装置前面のPOWERランプが緑色に点灯します。



電源を切断する

電源の切断は、電源の投入と逆の手順で行います。

 電源ケーブル抜け防止金具の取り外し方法は、「1.2 電源ケーブル抜け防止金具の取り付け方法」(P.17)を参照してください。

第3章 装置の機能



この章では、本装置の機能について説明します。

3.1	本装置の特徴と基本機能	33
3.2	オートネゴシエーション機能.....	33
3.3	フローコントロール機能	33
3.4	AUTO MDI/MDI-X 機能	34
3.5	給電機能	34
3.6	給電方式	34
3.7	給電管理	34

3.1 本装置の特徴と基本機能

本装置は、全二重および半二重の10/100/1000Mbps ローカルエリアネットワーク（LAN）に高性能、低コストで接続できるワイヤスピードスイッチング機能とPoE 給電機能を備えています。本装置の機能を以下に示します。

機能	概要
ストア&フォワードスイッチ	受信フレームごとにチェックを行い、異常のないフレームのみを中継し、異常のあるフレームを破棄します
高速フォーワーディングレート	10Mbps: 14,880pps 100Mbps: 148,809pps 1000Mbps: 1,488,095pps
アドレスデータベースサイズ	最高 8,192 アドレスエントリまで学習可能です
エージアウトタイム	300～600 秒
オートネゴシエーション	IEEE802.3 準拠の Speed / Duplex 自動選択機能
フローコントロール	パケットロスが発生しないように、パケットの通信を制御します
PoE 給電	PoE (Power over Ethernet) 給電機能とは、ツイストペアケーブルを利用して、接続する PoE 対応機器（無線アクセスポイント、ネットワークカメラ、IP 電話など）に電力を供給できる機能です。

3.2 オートネゴシエーション機能

オートネゴシエーション機能とは、IEEE802.3uに規定された2装置間のプロトコルであり、優先順位に従い通信速度、通信モード（全二重／半二重）の設定を自動的に行う機能です。

オートネゴシエーション同士の接続は、相互に通信できるモードの中から、決められたアルゴリズムにより通信モードが設定されます。

オートネゴシエーションのガイドライン

オートネゴシエーション機能は、相手装置によっては正しく機能しない場合がありますので、接続後に正しく接続できているかどうか、前面のランプ（LINK/ACTランプ、FDXランプ）でご確認ください。期待した状態（10M全二重、100M全二重など）で接続できていない場合は、相手装置の設定を変更してください。

☛ 参照 [\[5.3 通信ができない場合\]](#) (P.39)

3.3 フローコントロール機能

本装置では、全二重通信時はIEEE802.3xに基づくPauseフレーム、半二重通信時はバックプレッシャ機能によるフローコントロール機能をサポートしています。

オートネゴシエーションにより全二重通信が確立した場合、接続相手の設定に従ったフローコントロールを行います。速度固定設定の場合、送信・受信方向ともにフローコントロールが有効となります。

半二重通信の場合、バックプレッシャ機能が有効になります。

フローコントロールのガイドライン

接続する機器でフローコントロール機能を使用する場合、本装置の該当ポートにフレームを送信できなくなることがあります。この場合、接続する機器のパuffa容量によってはフレームが破棄されることがあります。このため、音声や画像などを使用するネットワークの場合は、接続する機器のフローコントロール機能を無効にしてください。

3.4 AUTO MDI/MDI-X 機能

MDI/MDI-X を自動的に検出し接続する機能をサポートしています。

☛ 参照 [1.1.2 本装置 前面] (P.13)

3.5 給電機能

ポート1～8で、IEEE802.3afまたはIEEE802.3at対応の受電機器への給電機能をサポートしています。各ポートの最大給電電力は30Wです。装置全体では、100Wまで給電可能です。

接続された受電機器の検知と電力クラスの識別を自動的に行い、給電可能な場合は給電を開始します。

受電機器に正常に電力が供給されると装置前面のPoEランプのポートLEDが点灯（緑）します。

ポートに接続された機器が受電機器ではなく通常のイーサネット機器の場合は、給電を行わず通常の10/100/1000BASE-Tポートとして動作します。

3.6 給電方式

Alternative A (1,2,3,6ピン使用) 方式をサポートしています。

3.7 給電管理

本装置は、受電機器接続時に受電機器の電力クラスを識別し、現在の装置全体の給電電力の総和に加算して給電が可能かどうかを判断し制御しています。受電機器の電力クラスは、クラス0では15.4W、クラス1では4.0W、クラス2では7.0W、クラス3では15.4W、クラス4では30Wです。装置全体で給電が可能であるかぎり、新規に接続された受電機器への給電を開始します。

ポートへの出力電力は、受電機器の実際の電力使用量にもとづいて決まります。必要な分だけの電力供給を行うため、給電電力全体を効率良く使うことができますが、不意の給電停止を避けるため、ケーブルでの内部損失分や受電機器の電力使用量の変動を考慮して、電力の見積りを行う必要があります。

受電機器接続時に給電電力の総和と受電機器のクラスによる給電電力が100Wを超えた場合、その受電機器への給電は行われません。また、以下の場合には、給電が停止されることがあります。

- 運用中に給電電力の総和が100Wを超えた場合、受電機器が接続されたポートの中でポート番号が最も小さいポートへの給電が停止されます。
- 受電機器を接続し、装置電源を入れた時に電力総和が100Wを超えた場合、受電機器が接続されたポートの中でポート番号が最も大きいポートへの給電が停止されます。
- 運用中に本装置または受電機器側で何らかの要因により過電流が発生した場合、接続されたポートへの給電は停止されます。

こんな事に気をつけて

- 給電状態の確認や受電機を接続するときは、ECOスイッチをOFFにしてから実施してください。
- 受電機器を接続した時に、PoE FULLランプが点滅した場合は、リンクアップしません。他の不要な受電機器の切断または電力の見積りをし直した後に再度接続してください。
- 運用中に給電電力の総和が100Wを超えて給電が停止された場合は、不要な受電機器の切断または電力の見積りをし直した後に再度接続してください。また、給電が停止されるとリンクダウンとなり、データ通信が切断されるのでご注意ください。

第4章 ネットワーク構成例



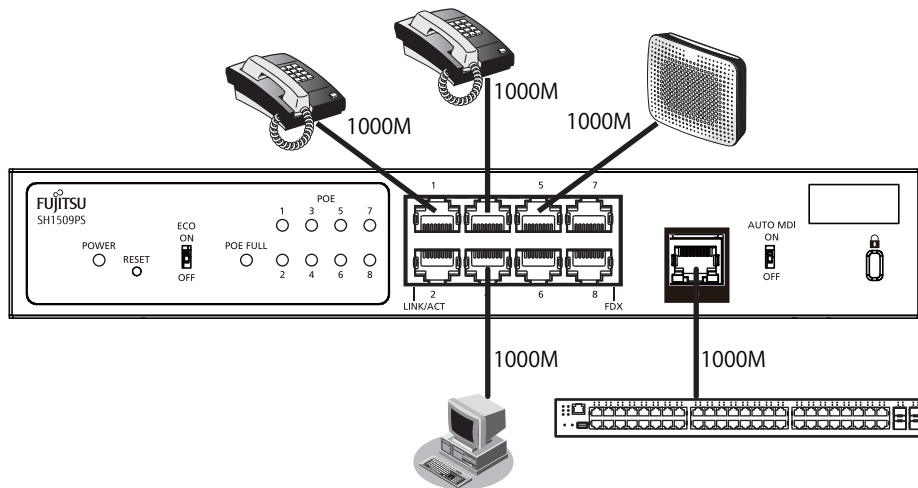
この章では、本装置のネットワーク構成例について説明します。

4.1 構成例

本装置を使用して、PC（端末）および PoE 対応の受電機器（IP 電話機、無線アクセスポイントなど）を接続することが可能になります。

フロア内小規模 LAN にて、端末数台を本装置で集約した構成例を以下に示します。

PC、IP 電話機、無線アクセスポイントなどの接続を行います。



第5章

トラブルシューティング



この章では、トラブルが起きたときの原因と対処方法について説明します。

5.1	トラブルが発生したら	38
5.2	ランプが異常な場合	38
5.3	通信ができない場合	39
5.4	PoE 給電ができない	39

5.1 トラブルが発生したら

ご使用中に何らかの異常が発生し、修理を依頼する前に以下の項目の確認をお願いします。確認後も正常に動作しないときは、弊社の技術員または弊社が認定した技術員または担当営業にご相談ください。



修理を依頼する前に、必ず接続と設置環境の確認を行ってください。

5.2 ランプが異常な場合

● POWER ランプが点灯しない場合

- ・ 電源ケーブルが電源コネクタに確実に接続されていますか。
- ・ 電源ケーブルがコンセントに確実に接続されていますか。
- ・ コンセントにはAC100Vが供給されていますか。

● LINK/ACT ランプが点灯しない場合

- ・ 通信相手の装置は通信可能な状態ですか。
- ・ モジュールが正しく接続されていますか。
- ・ ツイストペアケーブルに断線、ショートはありませんか。
- ・ ケーブルは長すぎませんか。ツイストペアケーブルは、100mまでしか接続できません。
- ・ ECOモードになっていませんか。ECOスイッチがOFFになっているか確認してください。

● 未使用ポートのLINK/ACT ランプが点灯している場合

- ・ 設置環境に問題はありませんか。

☛ 参照 [C.3 設置環境] (P.44)

● 通信状態でLINK/ACT ランプが点滅していない場合

- ・ 設置環境に問題はありませんか。

☛ 参照 [C.3 設置環境] (P.44)

- ・ ECOモードになっていませんか。ECOスイッチがOFFになっているか確認してください。
- ・ 通信量が少ない（低負荷）状態ではありませんか。

☛ 参照 [ランプの詳細] (P.15)

5.3 通信ができない場合

- 端末の移動を行った場合、リンクダウンしても移動前のポートにMACアドレスが保持されており、学習したMACアドレスは削除されません。そのため、しばらくの間、通信できない場合があります。通信を行いたい場合は、エージアウトタイム 300 秒～600 秒を待つか、電源ケーブルをコンセントから抜き差しして装置の再起動を行ってください。
なお、移動した端末がリンクアップ時にパケットを送信すると、MACアドレスの情報が上書きされるため、即座に通信可能となります。
- 通信できないポートに接続したケーブルを、ほかのポートへ接続を変更してください。このとき、通信が可能になった場合は、本装置の故障です。また、ポートを変更しても通信できない場合は、ケーブルの不良または接続相手の故障が考えられます。
- ループの可能性があるので、接続先を確認してください。

☛ 参照 [「C.1 ケーブル誤接続（ループ）に関する注意」\(P.43\)](#)

5.4 PoE 給電ができない

- 相手装置が IEEE802.3af または IEEE802.3at に準拠した製品であることを確認してください。
- 使用しているケーブルがカテゴリ 5e 以上のツイストペアケーブルであることを確認してください。
- ケーブルが正しく接続されていることを確認してください。
- PoE FULL ランプ / PoE ランプが点滅しているか確認してください。ランプを確認する場合は、ECO スイッチを OFF にしてください。
ランプが点滅している場合、装置の最大給電電力を超えている可能性があります。接続した PoE 機器の総消費電力を確認してください。

付録



この章では、基本仕様、インターフェースの仕様について説明します。

付A	基本仕様	41
付B	10/100/1000BASE-T インターフェース	42
	B.1 接続コネクタ	42
	B.2 端子対応	42
付C	スイッチングハブ利用時の注意事項	43
	C.1 ケーブル誤接続（ループ）に関する注意	43
	C.2 接続ポート設定に関する注意	44
	C.3 設置環境	44
	C.4 電源ケーブルに関する注意	44

付A 基本仕様

項目		仕様
基本インターフェース	10/100/1000BASE-T	9
インターフェース仕様	AUTO MDIスイッチ OFF時 (工場出荷時)	ポート1～8までMDI-X固定 ポート9はMDI固定
	AUTO MDIスイッチ ON時	ポート1～9までMDI/MDI-X自動検出
	オートネゴシエーション	○
	フロー制御	○
	IEEE802.3x (全二重)	○
	バックプレッシャ (半二重)	○
パフォーマンス	スイッチ容量	18Gbps
	最大パケット転送能力	1,340万pps
	MACアドレス登録数	8,192
セキュリティスロット		○
RESETスイッチ		○
ECOスイッチ		OFF (工場出荷時)
AUTO MDIスイッチ		OFF (工場出荷時)
EAP透過		○
BPDU透過		○
転送可能最大フレーム長		10,240バイト
PoE機能	PoEポート	1～8 (IEEE802.3af/at準拠)
	PoE総給電電力	100W
	給電方式 (Alternative)	A
外形寸法 (W×D×H) (突起物または台足を除く)		約266mm×約220.5mm×約43.5mm
質量		2.3kg以下 (本体のみ、電源ケーブルおよびオプション類、その他は含まず)
電源		AC 100-240V
電源 (コンセント形状)		平行2極接地極付プラグ
電源ケーブル長 (同梱)		2m
最大消費電力 (発熱量)	給電あり	AC100V : 130W(468.0kJ/h) AC200V : 127W(457.2kJ/h)
	給電なし	AC100V : 10.2W(36.7kJ/h) AC200V : 10.1W(36.4kJ/h)
騒音		ファンレス
動作時	温度	0～45℃
	湿度	15-85%RH
保管時	温度	-15～60℃
	湿度	8～90%RH
適応規格		VCCI Class A

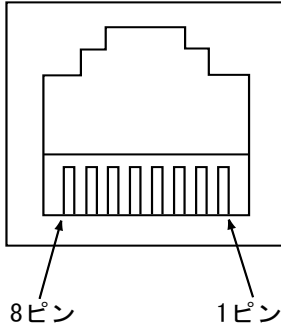
○：サポート

IEEE：Institute of Electrical and Electronics Engineers 米国電気電子技術者協会の略称

付B 10/100/1000BASE-T インタフェース

B.1 接続コネクタ

8ピンモジュラージャック (RJ-45)



B.2 端子対応

ピン No.	10/100BASE-TX		1000BASE-T	
	MDI	MDI-X	MDI	MDI-X
1	TD+	RD+	TP0+	TP1+
2	TD-	RD-	TP0-	TP1-
3	RD+	TD+	TP1+	TP0+
4	-	-	TP2+	TP3+
5	-	-	TP2-	TP3-
6	RD-	TD-	TP1-	TP0-
7	-	-	TP3+	TP2+
8	-	-	TP3-	TP2-

- : 対応していない

B.3 PoE 給電

1～8の各ポートへの最大給電電力は、30W (IEEE802.3at時) です。装置全体では、100Wまで給電可能です。給電方式は、Alternative A (ケーブルの信号線1,2,3,6利用) です。

付C スイッチングハブ利用時の注意事項

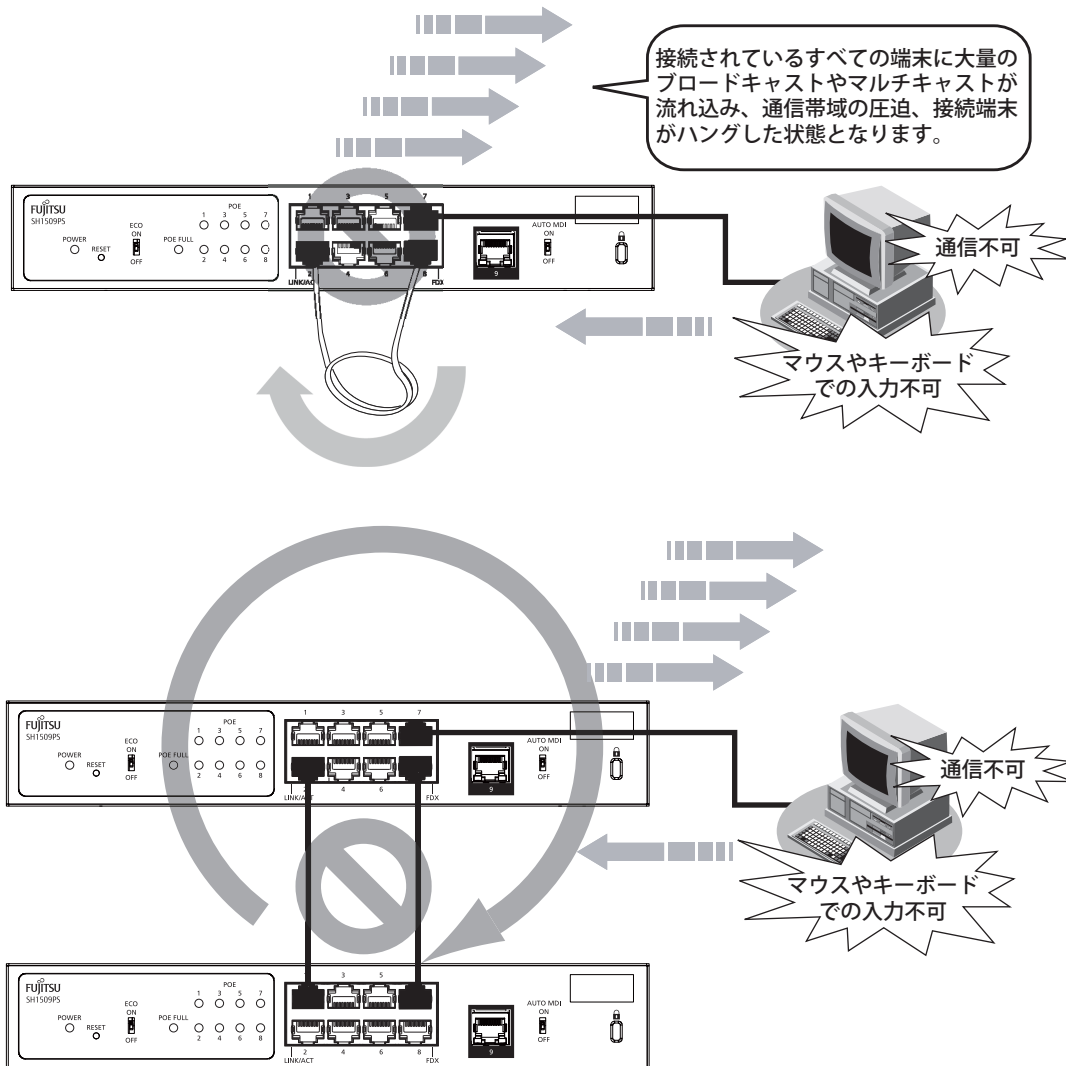
スイッチングハブを正しく利用するために、以下の点にご注意ください。

C.1 ケーブル誤接続（ループ）に関する注意

スイッチングハブにケーブル接続した際、接続構成によってはループが発生することがあります。

たとえば、スイッチングハブに接続されたケーブルを同じスイッチングハブに接続した場合、スイッチングハブ配下に接続されたハブから更にスイッチングハブに戻ることで、ループ構成になります。

ループした場合、マウスやキーボードの入力ができなくなったり、通信ができなくなったりします。

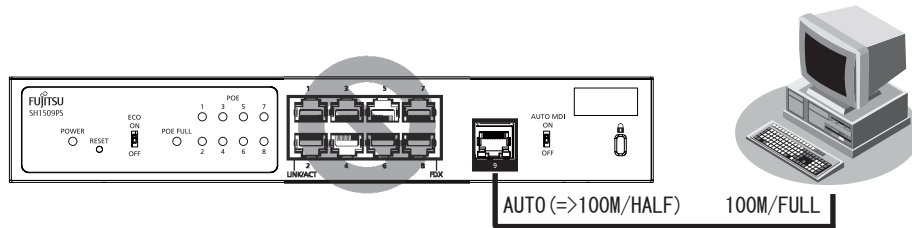


【対策】

- 不用意に接続される可能性があるため、未使用ケーブルを接続したままにしないでください。
- ケーブル接続する際は、事前に接続相手を確認した上で、ケーブル接続してください。
- ケーブル誤接続によるループ障害防止策として、SR-Sシリーズ/SR-Xシリーズの提供する「ループ検出機能」をご検討ください。

C.2 接続ポート設定に関する注意

スイッチングハブに接続するパソコンやスイッチ・ルータの設定を合わせない状態で接続すると、通信が遅い、通信が切断されるなどの症状が発生することがあります。

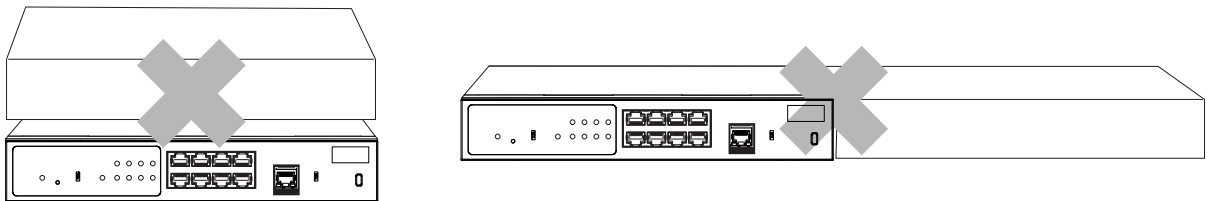


【対策】

接続相手の設定をオートネゴシエーションに設定してください。

C.3 設置環境

本装置または他の装置を積み重ねたり、通気孔をふさぐように横に並べて設置したりしないでください。装置が高温になり、故障または、装置寿命に影響を与えるおそれがあります。

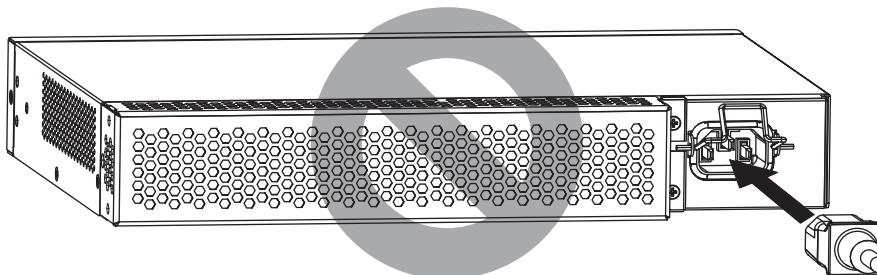


【対策】

本装置の設置については、[\[2.2 設置する\]](#) (P.24) を参照してください。

C.4 電源ケーブルに関する注意

電源ケーブルを接続したまま移動させた場合、ケーブルが抜けやすくなる場合があります。



【対策】

機器移動の際は、本体から電源ケーブルを抜き、移動後電源ケーブルを再接続してください。

ケーブル接続時、本体に根元まで確実に差し込まれていることを確認してください。

電源ケーブル抜け防止金具を使用することによって、電源ケーブルの抜けを防止できます。

索引

記号

19 インチラック取り付け金具	18
19 インチラックに搭載する	25

A

AUTO MDI	34
AUTO MDI スイッチ	14

E

ECO スイッチ	14
----------------	----

F

FDX ランプ	15
---------------	----

L

LINK/ACT ランプ	15
--------------------	----

M

MDI-X	34
-------------	----

P

PoE FULL ランプ	15
PoE 給電	39, 42
PoE ランプ	15
POWER ランプ	15

お

オートネゴシエーション機能	33
オプション	18
温湿度条件	21

き

基本機能	33
基本仕様	41
給電管理	34
給電機能	34
給電方式	34

こ

構成例	36
ゴム足取り付け用ネジ穴位置	16
梱包内容	12

し

シリアル番号	13
--------------	----

す

スイッチングハブ利用時の注意事項	43
------------------------	----

せ

製造ラベル	16
セキュリティスロット	13
接続コネクタ	42
接続する	29
設置環境を確認する	20
設置条件	21
設置 (保守) スペースを確認する	22

た

卓上に設置する	24
端子対応	42

ち

チェックリスト	21
注意ラベル	16

つ

ツイストペアケーブルを接続する	29
ツイストペアケーブルを放電する	29

て

電源ケーブル抜け防止金具	17
電源コネクタ	15
電源条件	20
電源の切断	30
電源の投入	30

と

トラブルが発生したら	38
------------------	----

ふ

フローコントロール機能	33
-------------------	----

ほ

本装置 上面	16
本装置 前面	13

本装置 底面	16
本装置 背面	15
本装置の特徴	33

ま

マグネットを使用して設置する	27
----------------------	----

ら

ランプの詳細	15
--------------	----

り

リセットスイッチ	14
----------------	----

Fujitsu Network SH

SH1509PS 取扱説明書

P3NK-6142-02

発行日 2023年5月

発行責任 富士通株式会社

- 本書の一部または全ての無断転載を禁じます。
- 本書は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- 本書に記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権、その他の権利については、当社はその責を負いません。
- 落丁、乱丁本はお取り替え致します。